

～ご参加の皆さまへお願い～

- ・市内探訪では、集合から解散まで統一行動となっています。
- ・歩行中は一列又は二列で歩き、道路横断時などは交通安全に十分気を付けてください。
- ・急坂、石段などありますので、足元に注意してください。
- ・昆虫や植物などは採集しないで、カメラやスケッチに収めてください。
- ・地元の方々のご理解・ご協力をいただき、神社や寺院などに伺いますので、失礼のないように注意してください。
- ・弁当や菓子などのゴミは、各自お持ち帰りください。
- ・記録写真を撮る場合がありますので、ご了承ください。
- ・アンケートを取る場合がありますので、その時はご協力ください。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設見学等の際にはマスクの着用にご協力をお願いいたします。



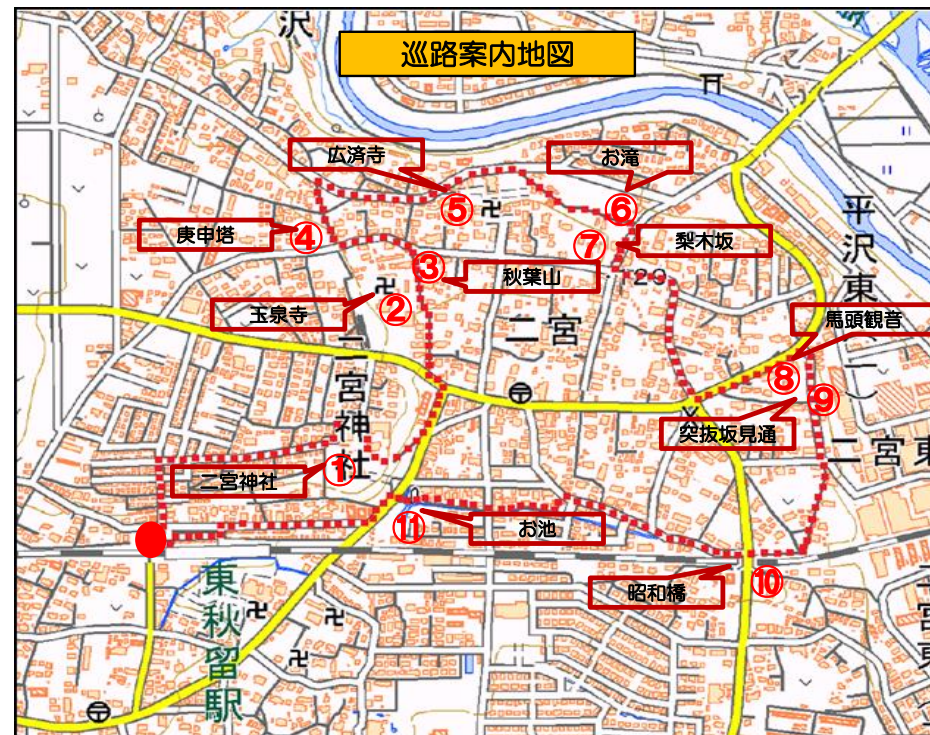
私たち市民解説員は、ふるさとあきる野を愛し、地域の自然・歴史・文化の再発見に努めるとともに、これらを市民の皆さまや市外から訪れる方々に紹介し、まちづくりと生涯学習の推進を図る学習ボランティアです。あきる野市は、自然や遺跡、文化財の宝庫です。美しく恵まれた環境のもとで、地域の皆さまと一緒に学びあい、活動できることを嬉しく思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

企画・実施 担当市民解説員
田之倉全・在原久雄・小熊孝彦

市民解説員が案内する市内探訪

「東秋留 二宮・平沢の歴史を訪ねて」

～みち・お宮・お寺・石灯籠・石地藏などを巡る～



探訪巡路

JR東秋留駅前集合（9：00）☆⇒①二宮神社⇒
②玉泉寺⇒③秋葉山⇒④庚申塔⇒⑤広済寺・田中丘隅回向墓☆⇒
⑥お滝⇒⑦梨木坂⇒⑧馬頭観音・庚申塔・耳垂れ地藏跡⇒
⑨突抜坂見通し地点⇒⑩昭和橋⇒⑪お池⇒
JR東秋留駅前着・アンケート回収・解散

令和5年5月15日
あきる野市 中央公民館

探訪場所の簡単な解説

参考資料：秋川市史・無漏西游・秋川市ふるさとの道・他

① 二宮神社

所在：あきる野市二宮2252番地
 祭神：国常立尊（くにとこたちのみこと）
 由緒：起源は相当古く、小川大明神（多摩郡小川郷の鎮守）と称し、平安時代、総社の制が生まれ、武蔵の国府・府中にある大国魂神社が武蔵総社六所の宮となり、その二ノ宮として選ばれ、二宮大明神とも称した。
 明治3年二宮神社に改称。
 沿革：藤原秀郷が天慶2年（939）平将門追討の戦勝祈願。その後源頼朝、北条氏政、北条氏照の祈願所となった。
 朱印：徳川家康より15石
 天保8年（1837）火災により記録等焼失
 市指定有形文化財：本殿及び宮殿



③ 秋葉山（あきばさん）

二宮上宿にある石灯籠が秋葉山です。造塔年は不明です。
 下宿と中宿の境にある秋葉山は寛政12年（1800）の造塔です。
 静岡県浜松市にある秋葉山の秋葉神社は火難除けとして信仰され、二宮には秋葉山を祀る石灯籠が三つあります。



写真左
上宿秋葉山



写真右
下中宿秋葉山

④ 庚申塔

文化元年（1804）、寒念仏講中により造塔されたもので、石灰岩の自然石に彫られています。



⑤の1 平澤山 広済寺（臨済宗 建長寺派）

所在：平沢732番地
 創建：天正15年（1587）2月
 開基：不詳なれど「新編武蔵風土記稿」に当村名主八郎左衛門の先祖とあります。
 開山：椿山仙禅師
 本尊：釈迦牟尼仏
 文政 3年（1820）火災に遭う。堂宇、古文書等焼失。山門のみ残る。
 天保 7年（1836）19世三嶽和尚再建
 昭和24年（1949）類焼に遭う。
 本堂、庫裡焼失
 昭和49年（1974）庫裡再建
 平成 6年（1994）旧姿に再建



⑤の2 田中丘隅回向墓

広済寺本堂の南側墓地に、田中丘隅の回向墓（供養のために建てられたお墓）があります。丘隅は寛文2年（1662）、平沢の久保島家に生まれ、成人後、東海道川崎宿の名主田中家の養子となり、民政に努めて名声を得ました。後に幕府に召し出され、荒川、多摩川、酒匂川などの治水に功績をあげ、その功により（多摩・埼玉2郡のうち）三万石支配の代官に任ぜられました。
 丘隅の著書『民間省要』は、江戸時代の社会や経済を研究するための重要な書物の一つです。丘隅は享保14年（1729）12月20日、67歳でなくなり、川崎市幸区小向町の妙光寺に葬られています。



⑥ お滝（ざくざく婆の湧水）

「お滝」とよばれていた湧水です。昔ここは、さびしい所で、ざくざく婆が、毎晩小豆を洗いに出了所だと云われていました。

⑦ 梨木坂

この付近の畑に、梨の木が植えられていたとのことで、坂の名になったということです。坂の途中、右手の土手に大正14年（1925）7月に建てられた道路改築記念碑があります。五日市街道に多摩橋が出来たので、北宿方面からの利便のために、この坂を改修する必要があったことが書かれています。



⑧ 郷倉辻と耳だれ地蔵

ここは古来から交通の要衝の場所であったと云われています。
 南は「とね山」の道で小川へ続きます。旧五日市街道は崖下へ下り、平井川は黒橋という板橋を渡り、多摩川は船で渡りました。
 郷倉は江戸中期の老中松平定信が各村に置くことを命じた備蓄のための穀物倉です。北西の角には郷倉辻の名残が膳椀蔵があり、その横には、耳の病に効くと云われた「耳だれ地蔵」が置かれていましたが、令和5年に、膳椀蔵は解体され防災倉庫に、耳だれ地蔵は、玉泉寺に移されました。

⑨ 馬頭観音・庚申塔

南西の角には馬頭観音と庚申塔があります。令和5年に、宅地化工事に伴い移されました。

耳だれ地蔵



馬頭観音・庚申塔



⑩ 突抜坂見通し地点

江戸時代末期、下草花村と熊川村との間の多摩川の河原地境訴訟の際、「牛浜坂下の一地点から突抜坂へ西から南へ16.5度の方角に見通した線の226メートルの地点から云々」で始まる境界線の取極めがあります。市史では、その突抜坂の見通し地点を二宮2116番地付近と記述しています。令和5年の宅地化工事に伴い、測点石は取除けられました。



⑪ 昭和橋

五日市線に架かる都道166号線の陸橋です。昭和12年に架けられこう呼ばれています。

⑫ お池

この池は、日本武尊が東征のみぎり武蔵野に入り、水が無く将兵大いに渴いたため、この地に水国の神霊、国常立尊を祀ったところ、たちまち水が湧き出し、いまに至るまで、いかなる千ばつが続いても水が涸れないといわれています。
 近くに、風邪、とくに咳に霊験があるといわれるオシャモジ様が祀られています。

② 鷲峰山 玉泉寺（天台宗）

住所：二宮2265番地
 創建：元禄以前は、多摩川縁にあったと云う。
 開山・開基：不詳
 本尊：阿弥陀如来と脇侍の観音・勢至菩薩
 元禄8年（1695）河野傳左衛門寄進
 建物：本堂・山門・鐘楼
 （元禄4年・4世詮海の時落成）
 寺紋：信州善光寺のものと似、一時別院の役割を果たしたと云う。
 朱印：20石
 お十夜：戦前は10月13日から15日まで縁日が立った。鉦張り念仏は、珍しい行事で二宮の講中により行われていた。
 二宮学校：東秋留小の前身がありました。
 見所：
 ①本堂内に安置された不動明王
 ②山門の仁王尊
 ③大樽に安置された平和観音像と恵比須様
 ④市指定天然記念物のエノキ

